

栗井地区タウンミーティング

平成25年2月1日（金曜）

【市長】 皆さんこんばんは。今日は金曜日、平日でございます。お仕事があった方もいらっしゃると思いますけども、このように多数、雨の中お集まりいただきましてありがとうございます。もう月曜日になりますと、暦の上では立春ということで春になりますけども、今一番寒いころです。このタウンミーティングの開催に当たりましては、栗井公民館の樋野館長さんをはじめ、役員の皆様方にはご協力をいただきましてありがとうございます。さて、このタウンミーティング、私が就任させていただいてから始めさせていただいております。市役所に来ていただくのを待ってるほうが楽だと思います。そうではなくて、我々のほうから各地区に出向かせていただいて、皆さんの声を聞かせていただいたほうがいいんじゃないかという思いから始めさせていただきました。松山市は全41地区に分かれるんですけど、公民館本館ごとに開催をさせていただいております。今回が39地区目ということで栗井地区の皆さんには大変お待たせをいたしましたというところでございます。皆さん御存じのように、私実家は河野地区、横でございます。河野地区がどうも最後になりそうなんですけども、まあそんな状況です。またこのタウンミーティングですけどもモットーにしてるところが、やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしないというのが、この松山市版のタウンミーティングでございます。ここで皆さんの声を聞かせていただいて、聞いてますよっていうだけのほうが楽です。でもそれではやっぱりいけない。やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしない、ただのガス抜きにはしないというのがこの松山市版のタウンミーティングの特徴でございます。おかげさまで、やれることから、市政に反映できることからすぐに反映をさせていただいております。皆さん御存じのように、鹿島の渡し船の料金とか駐車場の料金を社会実験をさせていただきました。これも北条のタウンミーティングが起点になっておりますし、また立岩のタウンミーティングでは風早ふるさとめぐりを復活させてほしい、これも小学生の声でいただきまして、復活をさせていただいております。このようにできることからすぐに反映をさせていただいておりますので、思い切って前倒しをして、大体2年2カ月で全41地区を回りきるという形で開催をしております。

さて、このタウンミーティングですけれども、ここで答えられることはすぐにお答えを差し上げます。また、持ち帰らなければいけないものの中にはあると思います。国と絡むもの、また県と絡むもの、また財政的な問題があるもの、そういうものはいったん持ち帰らせていただいて、そして1カ月をめぐりに必ずお返事をするというのが松山市版のタウンミーティングでございます。松山市の仕事というのは非常に幅広いものでございますので、それぞれの担当、専門家が来ておりますので、それぞれ自己紹介をいたします。

【市民部長】 皆さんこんばんは、市民部長の三好でございます。このタウンミーティングを統括しております。普段の仕事としましては、窓口における行政サービス、市民課でありますとか、パスポートセンター、市民相談課、22支所7出張所、そういった窓口サービスのほかに、住民主体の地域におけるまちづくり、男女共同参画、人権啓発など、幅広い仕事をしております。今日はよろしく願いいたします。

【保健福祉政策課長】 皆様こんばんは、保健福祉政策課長の津野でございます。国民健康保険、介護保険、高齢福祉など、保健福祉分野を担当しております。今日は皆様とお会いしていろんなご意見を聞かせていただきます。皆様の健康増進、そして福祉の充実に努めておりますので、本日はよろしく願いいたします。

【都市政策課長】 皆さんこんばんは、都市政策課の白石と申します。都市整備部では道路また公園等の整備、また維持管理を行っております。本日はどうぞよろしく願いします。

【産業政策課長】 皆さんこんばんは、産業政策課の大崎でございます。産業経済部では、地域経済の活性化、観光産業の振興、農林土木事業を展開しております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

【教育委員会企画官】 こんばんは、教育委員会の渡部と申します。学校教育をはじめ、公民館活動など教育行政には普段から非常にお世話になっております。ありがとうございます。本日もどうぞよろしく願いします。

【消防局企画官】 皆さんこんばんは、消防局企画官の岡本と申します。火災、救急、救助、そして地域防災、消防団を担当いたしております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

【市長】 という各分野の専門家6名でございます。1カ月をめぐりにというのは、

持ち帰らせていただいて、国に問い合わせる、県に問い合わせる、それで返事が返ってくる、松山市としての方針を決める、そして地区にお返事を返すという形になりますので、大体1カ月くらいをめぐりにさせていただきますけど、必ずお返事をさせていただきます。今日も栗井地区の魅力アップ、いい地域づくりに向けてのいい議論ができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

最初にまず魅力から話していただくのは、行政が主体になってその地区のまちづくりをしてしまったら、どの地区も同じような、金太郎あめのような地区ができてしまいます。それぞれの地区には歴史があって、特徴があります。そのよさを生かしたまちづくりができると、その地区はなお輝く。そしてその41の集合体である松山市はより輝くということがいえると思いますので、一番その地区の魅力について知っているのは地元の皆さんです。まずは皆さんで認識を深めてもらうということで栗井地区の魅力から話していただきます。よろしくお願いいたします。

【女性】 栗井の魅力について、日ごろ私の思っていることとお話させていただきます。まず一番目に、自然環境に恵まれております。文化、伝統、史跡、神社仏閣、句碑と興味をわかすものが数多くあります。二番目に、地域在住者、寛大な心をお持ちの方が多くということです。他地域からの転入者の受け入れと配慮がよくできています。また、児童、生徒、高齢者への思いやり、心遣いなどができて、地域への協力精神が旺盛です。三番目は学社融合ができています。理事会、小中学校、公民館、各種団体、サークルなどの連携がよくできて、ボランティア活動にも積極的なご協力をいただいております。また指導者がよいお手本となり若手指導者の育成にも配慮がなされております。その1つとして、公民館祭りや夏祭りには、サークル活動の方々のご協力をいただいております。また毎月第3日曜日に開催されておりますふれあいマーケット&スマイルタウンショップには、地域でとれた野菜、果物、手づくりスイーツやきねつきもちなどの販売にもご協力をいただき、スマイルタウンショップでは学童による手づくりのお菓子や食品などの販売、つくり方などにもご協力をいただいております。子どもから高齢者まで多くの参加があり、地域の活力につながっていると思います。そして地域全体が安心して、安全の地として日々生活できる、そんなまちづくりを目指しております。本日は地域の生の声を聞いていただける機会を与えていた

きましたこと、誠に感謝しております。ありがとうございます。

【市長】 もう網羅していただいたような感じでありありがとうございます。粟井は特徴として、家が増えてるってところが大きいですね。今全体には人口減少社会っていわれる中で家が増えている、そして若いご家庭、お子さんも増えているというふうに伺っておりますので、それは素晴らしいことだと思います。そういうところは大体、片やまちの中心地ではマンションでどんどん人が入ってくると、人のつながりがなくなってるんだと。「市長、本当人のつながりがなくなって、本当困っとんよ」というところが多い中で、今粟井はコミュニティ活動も盛んで、そういう地域のつながりがあると大きな災害が起こったときの助け合いにつながっていくので、子育てにしても介護にしても、やっぱりつながりがあるっていうのはすごく大事なことなので、粟井は非常に恵まれてると思います。また自然のことでいいますと、やっぱり自然はいいですね。海もきれいですね。海も白い砂浜で、我々ずっと地元にいると、白い砂浜裸足で歩いても気持ちがいい砂浜っていうのは当たり前だと思ってしまいうんですけれども、同じ瀬戸内海でも、岡山は海水浴のできるどころ行こうと思ったら車で1時間くらい走らないかん。海水浴場に行ったとしても、結構石ころの多い海水浴場ということですから、やっぱり美しい海がある、白い砂浜がある粟井は、本当に自然も恵まれてると思います。またこういうよさを生かしたまちづくりができればと思います。よろしく願います。

【男性】 私、現在光洋台に住んでおります。私がこちらへ住みまして、旧北条市の市長にいろいろ提案をしてまいりました。この素晴らしい自然を全国発信しましょうと唱え続けてきたんですが、一向に耳を貸してくれませんでした。今から17、8年前に企業誘致をしてほしいと言ったんですが、結局耳を貸してくれませんでした。これは今世界を代表するトヨタ自動車に来てくれとったら松山市に合併せんでもよかったなとよく笑い話で言うくらいです。この北条がだめで九州の苅田町に行きました。わずか2万2千のところは今28万になっとります。このようなことがありまして、私は常にこの北条の成功を陰ながら祈っておるわけです。この自然のすばらしさというのは、ここに生まれて住んでおられる方はほとんど気がついていない、これが当たり前ということですが、我々外から入ってくる人間はこんなすばらしい自然はないんです。これを全国発信していこうと

ということで、今松山市はレトロタウン構想というのを考えておられるようですが、私は、西谷から波妻まで、遊歩道をつくってほしいと。遊歩道というのは大きなお金かかりません、1メートルの道をずっと。その右側に高縄山、左側に瀬戸内海見て、大体6キロから8キロぐらいの遊歩道になろうかと思うんです。これ1メートルの歩道ですから大きなお金かかりません。その両側に花を植えていただく。そして、都会からどんどん人を呼ぶために、波妻の出発点のところに、20名から30名の簡易の宿泊施設をつくっていただく。そこに駐車場を置いていただいて都会からどんどん人が入ってきます。そこに車を置いて往復していただく。そこに3泊なら3泊、4泊なら4泊としていただくことで、この地域の景観を全国発信していただきたいと考えておるわけです。私も実際に全部は歩いておりませんが、すばらしい景観でございます。これは全国発信をしていただいたら必ずヒットすると思います。以上です。

【市長】 遊歩道のご提案が出ました、確認させてください。波妻の鼻くらいまで、どこが起点とお考えになられていますか。

【男性】 栗井小学校からちょっと上がったくらいからですね。

【市長】 なるほど、ルートとしてはすぐに海に出るんですか。

【男性】 山を、景観を見るわけです。

【市長】 なるほど、わかりました。これについては。

【市民部長】 タウンミーティング重ねますと、やはり皆さん地域に対する愛情からそれぞれ、北条の浅海ですと名石山、桑原ですと淡路ヶ峠、生石地区ですと垣生山、正岡ですと八竹山、このように皆さん地域の自慢があって、「いいところなんだけど道つくってくれんかな」って話がたくさんあります。行政もいろんな事業をやっておりますけれども、まずは地元の人が協力してやってもらって、そのところで一定の動きができるといっぱい協力できるんです。例えば桑原の淡路ヶ峠は、学校のPTAとか地域コミュニティとかそういうところで会をつくりまして、ずっと石段つくりまして、桜植えて並木でやっておるんですけど、今行政が参加させていただいて、そこにいろんな協力をさせていただいております。こういうことでつくるときに一緒にやりますと愛着もできますし、自分たちの町並みということができると思いますので、ぜひノウハウもお伝えしますので、ぜひ地元の人にこういういいところあるんだというのをお知らせしていただいて、

その上で行政にも参加せんかとお声かけいただいたらですね、いろんなことができると思いますので、そのあたりお声かけいただけたらと思います。

【市長】 地域の宝みがきサポート事業でしたかね、ご説明いただけますか。

【市民部長】 今、地域の宝みがきサポート事業といいまして、例えば道に限らず、神社仏閣でも、古墳でもいいですし、「この地域の中でこれが宝なんじゃ」「このところちょっと整備したいんじゃけど、ちょっとなんとかならんかな」とよく言われるんですけど、特に立札をつくるとか、修理するとか1地区30万円までですけど、まちづくり協議会あるいは公民館のほうから、そういう補助する仕組みもありますので、このあたりも声かけしていただきたいと思います。それからもう1つ、公的な支援だけでなく、銀行とか行政の外郭団体なんかがこういうことをやったときに助成しますよという助成の仕組みもお教えすることもできますので、ぜひいつでも取り組んでいただきたいと思います。

【市長】 相談するならどこの課ですかね。

【市民部長】 まず、市民参画まちづくり課に「こんなことしたいんじゃけど」と言っていたら、庁内の調整させていただきますので、あっち行けこっち行けって言うんじゃなくて、行っていただくんだったら一緒に行くとかさせていただきますので、ぜひ市民参画まちづくり課に声かけいただけたらと思います。わからなかったら公民館のほうから声かけしていただいても結構ですのでよろしく願いいたします。

【男性】 今ウォーキングロードをということでしたけれども、それにちょっと関連してくるんですが、私はサイクリングロードをぜひつくっていただきたいと。私よく自転車で走るんですけども、走るところいっぱいありそうでないのがこの北条だと思うんです。本当に自転車で走ると危ない、例えば藤沢だとか、千葉のほうも知っておりますけれども、大きい公園があって、10キロぐらいのサイクリングロードがあるんですね、自転車で走れると。大勢の人が自転車で走っておりますけど、ウォーキングロードもですけども、サイクリングロードも考えていただけたらと思います。

【市長】 はい、これは私から。職員たちは手元に細かい数字が並んでおりますので座ったまま話をさせていただきます。私はできるだけ皆さんの顔を見ながら話したいので、私は話を立ってさせていただきます。サイクリングロードへの動

きはもうすでに出ております。実は愛媛県が2014年、来年しまなみ海道を世界のサイクリングの聖地にしようということで動いております。そういう中で愛媛県が「愛媛マルゴト自転車道」というのを提唱しております、松山市もその連携の中でやっていくと。私も去年、台湾の世界最大の自転車メーカーのジャイアントの会長さんと一緒に、県庁から道の駅の風和里まで自転車で走らせていただきましたけれども、風和里には、ああいうサイクリングの自転車ってスタンドがないんですね、重くなるので。自転車止めるところに苦労するんですけども、さっそく風和里には、15台分の自転車ラック、自転車を止めるところをつくらせていただきました。またこれからもパンクしたときの修理器具とかも配備していこうと思っておりますけれども、国道や県道が大体北条の道はなりますので、国や県とまた協議しながらマルゴト自転車道進めていこうと思っておりますのでよろしくをお願いします。

【男性】 お願いと提案を2つお願いしたいんですが、初めに宅並山になぜ登り始めたかといいますと健康と歩き遍路のために登り始めたんですが、その後、県の森林環境税を14年から6年間いただきました。登り始めてよかったことは人との出会いがすばらしいことでした。その後、それより先に小川地区では平成6年に登山道の整備と朽ち果てたお宮の奥の院の整備、そして年に1回役員が草刈りをしていたんですがそれではあまり整備は進まず、私が登り始めてから1カ月くらいしたころからきれいなところへ行きたいということで、剪定のこと剪定ばさみ一人で登って掃除をし始めたのが現在に至っております。その間、粟井公民館とか区長会、粟井小学校の皆さんにお世話になりまして、粟井小学校では平成16年から3年生の総合学習に利用させていただいております。そして市の広報でも取材していただきまして、粟井地区以外の方が非常に多くなりまして、道路の案内標識を設置していただいたらと思います。そして次ですが、私が登り始めたころ当初の予定はミニ登山、ミニ公園になりつつあるんですが、私の夢は粟井に城跡が3つあるわけです。横山城へは粟井から登る道の整備、これは公民館で声をかけていただき皆さんのお手伝いで登れるようになりました。菟木城から高縄山へは登山道は菟木の方が整備していただいています。これで私の夢はかなったんですが、この後元気な間は宅並山に登っていきたいと思っています。この後誰かお手伝いしてくれる人ができると思っています、また子どもたちにも期待して

おります。そして宅並山のボランティアの募集を10年間になるんですが、年に5回程度登山道の整備と下草刈りをしています。そして年に1回植樹といった行事もしております。そのときには100人から200人程度登ってきます。これと思うとお手伝いしようと思ってくれている人は非常にたくさんおるんじゃないかなと思うかと思っております。そして地区には定年退職された方も非常にたくさんいらっしゃいます。そして健康のために運動している人、歩いている人非常に多いです。ごみもたくさん捨てておりますので、ごみ拾いなど歩きながらできるボランティアをその運動に結びつけてはと提案したいと思います。以上です。

【市長】 宅並山非常に頑張ってくださっているのはよくよく聞いております。桜の植樹ですとか、登山道の整備ですとか、展望台もありましたですかね。すごく動いてくださっているのはよくよく聞いております。これもまさに地域の宝みがきですよ。

【市民部長】 地域のアドバンテージ、魅力を生かした取り組みだと思うんです。地域によっては下草刈りされるところ、ちょうど前に行った和気でもそういった提案がありまして、「経ヶ森から高浜に抜ける遊歩道すごいところがあるんだけど、非常に名所、古い史跡があってそこのところ歩きながらっていうことでやっておるんだけど、下草を刈るのに苦労しとる」というところがありまして、そういう地域の人を集めるということが一番難しいと思うんです。そういう同じ志を持った人が集まるといろいろ解決できると思うんです。例えば金銭面でいいますともちろん行政からの補助の仕組みもありますし、公民館のオンリーワン事業なんかと連携して一緒にやるとか、それから民間の金融機関の助成制度というのもありますし、今言った案内標識とかいうのは具体的に場所見せていただかないとどこまでできるかわかりませんが、一回現地なども見せていただいて、どういう状況か見て、何かの対応ができないか検討はいたしますけれども、まず一番大切なのは、そういったところを地域の人で考えて、みんなで協力できる仕組み考えるのが一番大切だと思います。その上で行政ができることはどこまでできるかわかりかた考えていきたいと思っております。また後ほど現地同行させていただくということで構いませんでしょうか。

【市長】 これも担当は市民参画まちづくり課ですか。

【市民部長】 これは都市整備部か私のほうでお伺いしますので、よろしくお願

いします。終わってからもおりますのでお声かけください。お願いします。

【男性】 先ほど市長さんが、人口減少社会の中で粟井地区は人口が増えていると話されましたが、その中でも一番人口が増えているのは和田ではないかと思っております。それで高齢者の交流の場としての集会所の開放及び整備、有効活用についてご説明をさせていただきます。現在、和田町内には約200戸くらいの世帯があります。最近急速に住宅が増えており、子どもさんのいる若い夫婦も増えております。幼稚園から中学生まであわせると約120人となっております。このような状況の中、町内会の喫緊の課題は従来から住んでいる方と新しく入居された方たちとの交流を円滑に図るということにあります。町内会の行事として水路清掃とか市民大清掃とか秋祭り等々交流の場がそれなりにありますが、日にちの限られた行事となっております。そこで住民の交流を拡大、拡充するために、また115人おいでます高齢者の方を結ぶ1つの方法として集会所という場を提供し、いつでも集会所に行けば話し相手がいるという仕組みをつくり、管理運営をしていったらどうかと考えております。始めるにあたってはまだまだ時間がかかりますが、町内会長をはじめ数人の方とはそれに向けての地ならし的なことは始めているところです。今までに培ってきた知識や経験に花を咲かせ、ゆくゆくは子どもたちや若い親御さんに伝えていく、例えば野菜、花づくり、お飾り等のわら細工等々あると思いますが、また伝統文化の継承も行っていけば、地域の交流や活性化に寄与するものと考えています。さらにそういうことを深めていけばいざというときの自主防災活動も機能的に働くものと考えております。しかしながら、このような集会所の利用を進めていくと気になることは、畳とか床等の傷みも激しくなったり、エアコン等の備品の整備も必要になってくるものと考えております。今後いろんな地域で集会所の有効活用が図られていくときには、そういう修繕等しなければならないことが多く予想されますので、ご支援とご協力をお願い申し上げまして説明を終わります。以上です。

【市長】 はい、わかりました。皆さんにわかりやすくご説明をいたしますと、公民館の本館というのと公民館分館、または集会所というものがあります。この公民館本館というのは市のお金ですべて建設をするものですが、公民館分館、集会所はまたちょっと違う範囲ということになります。ここは市民部長お願いします。

【市民部長】 今の発言の趣旨には全く賛同をいたします。地域の共有施設を有効にまちづくりに活用していただきたいと思います。そこで北条の集会所について、市長から話がありましたとおり集会所は、旧松山市では本館の下の本館活動を支える分館組織という意味合いが強かったんですけれど、合併されるときに、ただ分館というのはどうしても公民館活動といういろんなカリキュラム、社会教育活動をやらないといけないということで、合併するときそういう堅苦しいことよりも、従来の北条の集会所としてのよさを活用したいんで分館にはなりませんということを決意されて、行政の所管する80余りの集会所については従来通りの使い方になりました。そのかわり使い道としては、それこそ冠婚葬祭も含めましてお祭り、そういうことまで自由に使える、行政から干渉なく自由に使えるということだったんですけれども、問題は、自由に使うんだったら従来通り自分のお金で修理してくださいということでやっておったんですけれども、そのままだったら使う人、このまま古い館もあるんで修繕したいけどなかなか経費出すの大変だという訴えがございましたので、3年前に制度つくりまして。ちょうど市長の就任のときに了解をいただきまして、そのやり方を変えたいということで、そのかわり2分の1行政が助成をしますという形で、今順番に直していきます。ですから一定の最低限の額っていうのはありますけれども、順番に緊急を要するところから、地域の声を聞きながら優先的に直していておりますので、そのあたりは「集会所が壊れたな、何とか直したいな」というときには市民参画まちづくり課にお声かけいただいたらと思います。活動についても、従来通りの活用方法で地域のコミュニティ活動、公民館としての活動、そういった形で十分に活用していただければと思います。以上でございます。

【女性】 本日は市長さんをはじめ関係各位の方々がこの粟井の里へお越しいただきまして本当にありがとうございます。さっそく児童館の建設、設立につきましてお尋ねします。近年は松山市のベッドタウンとして住宅の建設が進み、旧北条地区の中でもこの粟井は人口が増加し、子どもの数が増えて大変うれしいことだと思っております。子どもは未来を担うかけがえのない宝です。子どもたちが夢と希望を持って健やかに育っていきますよう願ってやみません。そのためにも児童館のような施設で0歳から18歳まで、子どもが集い、親が集い、高齢者が集い、また地域の者が集い、多くのことを人やふれあいの中でお互いに学んでい

きたいと思います。しかし北条地区には児童館がございません。今までの要望ではかないませんでした。そこでとりわけ子どもの人口が増加しますこの粟井地区に児童館の建設、設立を切望いたします。どうぞお考えをお聞かせください。

【市長】 わかりました。児童館の要望、北条地区の方からよくよく聞いております。この北条地区というのは、児童館を建設する有力な候補というのはもう間違いのないところです。現在事務方が検討をしておりますので、もうしばらくしましたら結論が出ますので、今しばらく待っていただけたらと思います。

【男性】 今の児童館の件ですけれども、合併協議会の中に児童館の建設が取り入れられませんでした。今言われましたが、児童館はずっと14、5年前から北条市に建ててほしいという要望から始まって、合併協議会の中に入りませんでした。そういういきさつもございます、北条地区にぜひお願いしたいと思います。

【男性】 本日は愛護班の立場から3点ほど考えておったんですが、まず1点、これは回答をいただけるかどうかは別といたしまして、我々の子どものころはいろいろな空き地、広場がございましてそこで遊びました。遊びの中で社会のルール、先輩からいろいろ教えていただきまして、けんかもして、殴ったら痛いということも学びました。今の子どもはそういう遊びがないので家の中でゲームしています。ゲームはいくら殴っても人を刺してもリセットできます。そういうことが常識的になって、今いろいろな事件が出ております。ですからそういった遊び場を復活させていただきたいと思います。遊び場、松山市も運動をする施設もあるんですけれども、たとえばキャッチボールをしたらいかん、危ないから転んだらいかんから下を芝生にするとか考えていただいておりますけれども、少々けがをしていいと思います。今の子どもは転び方を知らないので顔からつつこんで顔をけがする、我々のころはそういった遊びの中で転んだら手をついて受け身みたいなこともその中で学んでおったんですね。少々ひざをすりむいたりしても死んだりせんと思うんです。そういうようなことをできる場所を復活していただけたらと思います。私も教育現場におります関係で、勉強ばかりしよったらどっかで若い子は発散させないかん、発散させる場をつくってやらないとどっかで爆発します。そういった体を動かして発散できる場所絶対必要だと思います。私教育現場におりまして、特進というのをつくったんです。そのときはその特進は部活は禁止ですというふうにしてつくったんですけれど、数年して部活をさせないとい

かんようになりました。やっぱり若い子は運動せんと爆発してしまう。ですからそういった昔のドラえもんの広場構想というのを打ち出した人もおるようですが、そういったことも考えていただけたらと思います。よろしくお願ひします。

【都市政策課長】 ただいまの公園、遊び場づくりということで公園的なところだとは思いますが、皆さんの身近な公園につきましては、今松山市におきましては国の補助制度がない関係で、新たに整備するというのは非常に難しいということがございます。ただ、今おっしゃられましたように、具体的に公園のこちら辺でこういうようなことを考えているんですよということがございましたら、また教えていただいて検討等させていただきたいと思ひますので、後ほどまた教えていただきたいと思います。

【市長】 粟井地区には何カ所くらい公園がありますか。

【都市政策課長】 今粟井地区では、14カ所くらい公園がござひます。開発でつくった公園という面積の小さい公園もござひますし、かなり大きい公園もござひますので、そういったところもまた活用していただきたいと思います。

【市長】 ちょっと私のほうから。今、国の補助とかいう話が出ましたので、松山市の財政についてご説明をさせていただきます。タウンミーティングで話していろいろな方から要望をいただくんですけど、私も人間ですので皆さんから要望をいただくと「わかりました、それやりましょう」「わかりました、それやりましょう、これもやりましょう」って言えたほうが私も気は楽です。でも今そのような状況には、日本全体そうですし、どこの地方自治体もそのような状況ではないんだというのを説明させていただきます。まず国の話をすると、国は今1千兆円の借金を抱えているといわれております。その国から地方交付税交付金とか国庫支出金という形で地方にお金が配分されてきます。大もとの国が1千兆円の借金を抱えている。日本の人口1億人ですから、1千兆円割る1億人で1人頭どれだけの借金を抱えているのかっていうのは大体推測はつきます。大もとがそんな借金を抱えている。どこの地方自治体も、松山市比較的いいって言われてますけども、どこの地方自治体も厳しい財政難です。松山でいうと、歳出で一番大きな割合を占めているのが民生費です。いわゆる福祉のお金ですけども、40パーセント占めております。あと教育費とか土木費とか衛生費とかいろいろあるんで

すけれども、一番大きなウエイトを占めているのが民生費です。この民生費が1年だけで松山市だけでどれだけ増えたかというとなら50億円増えたんです。福祉にかかるお金が50億円増えた。先ほど申し上げたように国から配分されてくるお金がこれから増えるとは考えられないので、50億どこかで増えたなら50億どこかで絞らないと財政のバランスは悪くなります。そしてこの民生費の中には生活保護費が含まれるわけですが、これは生活に困窮されている方にとっては非常に大事なお金です。セーフティネット、すごく大事なお金です。この生活保護費が松山市だけで、1年だけで15億円増えたんです。これは松山市としても生活保護費が圧迫することがあってはいけませんので、例えばケースワーカーと一緒にハローワークに行くとか、できるだけジェネリック医薬品を使っていたとか、いろいろ適正化は講じているんですけれども、それ以上に経済の状態が悪いので、生活保護費を申請されている方が多い。松山の特殊事情として、松山は愛媛の中で突出して大きいですね、52万、愛媛の中の3分の1の人口を占めてますから、東予や南予の方が「松山に行ったら何とか仕事があるんじゃないか」といって来られる。そして病院も多いですから松山に行ったら高度なサービスが受けられるということで入って来られる方もいらっしゃるんで、生活保護費が15億円増えているという現状があります。15億円増えたのならばこれもどこかで15億円絞らないと財政のバランスは悪くなる。私が例えば市長の人気取りで「これやってよ、あれやってよ」「はいはい、わかりました」、以前の高度経済成長の時代だったら日本の経済もどんどんよくなっていましたから、いろんなものが箱物もつくれたと思うんですけど、今それをやってしまうとそれは将来の子どもや孫にツケを残してしまうことになってしまいます。やっぱりものを建ててしまうと最初の費用も要るし、「はいやめます」「はいやめました」というのは言えませんから、維持管理をずっとしていかなければいけませんので、そのお金を考えなければいけない。じゃあこのタウンミーティング、皆さんから要望は言われる、苦しい思いをする。「タウンミーティングせんほうがいいやないか」と言われる方もいらっしゃるんですけれどもそうではなくて、皆さんの声をきちんと伺わないと優先順位を間違えてしまいます。それは行政としてはやってはいけないことなので、できる限り皆さんのところに足を運ばせていただいて、お声を聞かせていただこう。もちろん財政が厳しいからといって何もしないわけではないんで

す。例えば松山外環状道路、松山インターチェンジと空港の間30分もかかるんです。そんなのは全国の24地点で調べたんですが、松山とあとの3地点は北海道の3空港だったんですね。松山と広大な北海道が一緒の状態になっている。つまり、松山インターチェンジと空港の間は時間かかりすぎているので松山外環状線をつくっている。またJR松山駅周辺の整備もしないといけませんからJR松山駅の整備もしている。何にもしないのじゃなくってやるべきことはちゃんとさせていただいておりますけれども、そのような財政状況ですので、なかなか何でもやるという状況ではないということをご理解いただけたらと思います。というその後大体手が挙がりにくくなるんですけど、それは気にしないで言ってください。

【男性】 今の市長さんの財政のことを聞いてですね、黙っとうと思っと思ったんですけど言いたくなかったので手挙げました。まず、粟井地区の高齢者の福祉、今急ピッチで進んでおります。65歳以上が26パーセント突破という話も聞いております。そういった中で、今粟井地区だけの問題じゃない基本的な問題だと思うんですけど、高齢者が増える中で一番心配するのは私たちの立場上孤立死ですね。これがやっぱり一番心配です。なぜ心配かというと、地域の状況を見てもみますと粟井地区も一緒に地域の共同体というか絆というか、こういった無縁社会が、やはりとくとくと進んでいるというのは事実だと思うんです。その証拠に祭りの行事、みこしとかだんじりとかに出てくる人、やっぱり若者が少ない。これ見たらわかるわけですが、そういった中で高齢者が孤立していく立場はこれから深刻じゃなかるかなと思います、これが1点。もう1つは財政の問題ですけども、子は親に頼る、親は高齢者に頼る、もしかしたらじいちゃんばあちゃん銭がないかもしれんですね、その分国に頼る、あるいは地方公共団体に頼っていく。つまりろくに働きもせずろくに税金も納めずに、それでいて、働かずに飯が食える、生活ができる、いわゆる人権とか生きる権利とか、あるいは民生とか福祉とかこういうきれいな言葉に乗ってですね、頼っている人間が非常に増えているんじゃないかと思うわけです。やはり私はこれが一番怖い。これは粟井地区だけの問題じゃないんです、一般論ですよ。そういった中で、生活保護費の問題、私古い人間でちょっとわからないんじゃないけれども、生活保護、県で2万1千ぐらい、松山市が1万1千ぐらいじゃないかと思うんですけど、そんな

もんじゃないですか。それから考えたら、松山市の人口は県で34、5パーセント、生活保護費が55パーセント。異常じゃないかと思うんですね。そしてさっき言った生活保護費で1年間15億円増えておる、それからよそから入ってきてという分でも、あまりにも松山市が多いんじゃないかならうか。昨年、生活保護の不正受給の70パーセントが松山市じゃった、愛媛新聞の1面に書いておりました。こういった問題で、私はどういう生活保護の認定措置をするのかちょっとわからんんじゃないけれども、要するに先言ったことをひっかけてアリとキリギリスのキリギリスが何ぼでも増えていくんじゃないかならうか、これが非常に怖い気がするんです。民生費が非常に増えて40パーセントというのはわかるけど、障がい者の方とか必要な高齢者の方には何ぼでも落としてもいいけど、生活保護費、今国が問題にしておりますけれども、松山市もあまりにも多いんじゃないかならうかと疑問を持っておるんです。ちょっと答えてもらいたいと思います。以上です。

【市長】 はい、孤独死を防止する仕組みとしては松山市見守りネットワークというのをつくらせていただきました。これはよく取材もしていただきますので、見ていただいたこともあるんじゃないかなと思うんですが、例えば郵便局、銀行、生協の方、そういう方よく家に訪ねて来られます。例えば電気が昼間やのにつきゃばなしになつとるとか、新聞がたまつとるとか、そういうので異変を見つけたらすぐに連絡をしていただこうという松山市見守りネットワークをつくりまして、今13業者が参加してくださっています。こういう仕組みもできておりますので、もともと孤独死が去年の1月、2月とかにありましたので何とかできんのかという仕組みをつくりましたので、これはそういうことでケアしていこうと思います。不正受給の70パーセントが松山というのはわかりますか。

【保健福祉政策課長】 生活保護の人数ですが、平成24年4月で生活保護受けられとる方が12,266人でございます。先ほども市長から松山市の生活保護が伸びた理由につきまして説明がございました。これにつきましてはどうしても松山市の場合は病院も完備されている、就職地もあるだろうということで来られる方ももちろんおられます。その中で毎年、医療費の額が96億円、23年度もかかっております。これ約9.3パーセント、毎年伸びを示しております。生活保護を受けられる方は医療費が無料になりますので、自分でお支払いということがなくなりますので、先ほど市長が申しましたように適正な受給をお願いする、

できればジェネリックの後発剤をご利用いただくとかお願いはしているところでございます。こういう形で医療費の額を抑えることによって生活保護費の額も抑えられてくるものと考えております。それだけでなく、就労にいかにつなげていくか、生活保護を受けられている方の中で働く意欲のある方、または働ける方については就労支援プログラムの中で一生懸命就労につなげております。

【市長】 これさまざま適正化に努めております。例えば医療関係の方にも入っていただいたりとか、警察関係の方にも入っていただいたりとか。私就任してから民間では当たり前だったんですけれどもコピー用紙を両面使おうというのをやり始めました。これで年間で300万円のお金をつくることができました。当然松山市役所は個人情報を持ってますので、個人情報が漏れるような両面コピーはしてはいけませんけれども、そうやってして爪の先に明かりを灯すようにしてお金をつくってきているんです。ですので当然生活保護費が圧迫するというようなことは許されません。そして生活保護を不正に認めているというようなことがあれば、それは不祥事として当然叩かれますのでそういうことのないようにしっかりとちゃんと判断しておりますのでそこはご安心ください。これからもいろんな方策で適正化しますのでよろしくお願いいたします。

【女性】 これは私の個人的な考えかも知れませんが、旧北条地区の包括支援センターが難波のほうにありますけれども、何であんなに不便なところに包括支援センターがあるのか、できたときから疑問に思っております。北条地区の1つの機関ですので、支所なんか結構空いているんじゃないかと思うんですけど。そういうところに一緒にしていただくのは行政のあれでできないのかもしれませんが、それを1つと、先ほど言われましたジェネリックの医薬品ですけれども、高齢者は本当にたくさんお薬をもらっております。もっとジェネリックの薬品を使うような啓発をもっと徹底していただきたいと思います。以上です。

【市長】 確かに松山市の地域包括支援センターの北条は下難波にあります。粟井からは確かに遠いですよね。これどうしてそうなっているのか。

【保健福祉政策課長】 地域包括支援センターはちょうど市内に10か所設置しております。地域包括支援センターの立地につきましてはその方面をカバーできるという形で設置をさせていただいておりますので、中には、遠い方近い方いろいろおられると思います。ただ地域包括支援センターの業務といたしましては、皆

さんから来られることを待ってるだけではなくて、皆さんからのご相談とかご質問に応じるために、訪問させていただいております。もしお電話いただいでご相談することがあれば、ご自宅にも訪問させていただいて相談とかいろんなサービスとか対応することができますので、ご遠慮なく相談していただければと思います。

【市長】 訪ねるといのが基本なので遠慮なく電話していただいたらこちらのほうから出向いていく形ですので、遠慮なく電話していただいたらと思います。

【保健福祉政策課長】 それと、先ほどのジェネリックの問題ですが、ジェネリックの問題につきましては皆さんに強制するというものではございません。ジェネリックを生活保護を受けとる方に選んでいただければ生活保護費における医療費が抑えられるんじゃないだろうかということです。皆様方にジェネリックをお願いするとかそういうことではございませんが、内容的には保健所のドクターとかの話の聞くと効き目としては同じなんだけれどもという話がありますが、これは決して強制するものではございませんので、皆様方に新しいお薬を使っていたとかそういうのはよろしいかと考えます。

【市民部長】 今テレビのコマーシャルでやっておりますけれども、今国でも医療費を抑制するところから、効果が同じ薬だったらジェネリック使ってみたらどうですかというコマーシャルやられてます。あとは一般の受診する方がもちろん安い薬ですと費用負担も安いですから、そのあたりは受診される方が選択するというのもこれから広がっていくのではないだろうかと思っております。

【男性】 いろいろこう工夫してやっているのになかなかみんなが元気にならない、なんか発想の転換が要るのかな思っているときに去年の8月25日ですが、鹿島でフォークジャンボリーがあって非常に熱気があって、見てる人もやってる人も、シンガーソングライターみたいなアマチュアですけども、あの熱気はすごいなと。これは地域が元気になるのには本当にいいなと、粟井は近いですから。それでぜひああいったような仕組みと仕掛け、それから運用についても新しい社会インフラという観点から、日本の国の予算にどういった枠があるかというのは気になるところですが、やはりコンクリやハードも大事なことは間違いないんですが、むしろそれをどう使っていったらどういう仕組みでやっていくか、なんか建物だけができて最初のうちはこけら落としで市長も来られてやるんだけれども、

もう1年もたつと閑古鳥も鳴いている。だからやっぱりそこらあたりの仕組みと仕掛けと運用というのを行政と民間が一体となって継続していく。このフォークジャンボリーというのは1つの典型じゃないかと思いますので、ぜひご検討いただきたいというように思います。

【市長】 はい、わかりました。ありがとうございます。8月に鹿島に見にいっただけみたいでありがとうございます。鹿島で、フォークジャンボリーといって歌で地元を盛り上げていきましょうっていうイベントをしまして、おかげさまで暑かったんですけども多くの方が来ていただきました。歌っていうのはまちを元気にしてくれます。いい雰囲気を醸し出してくれます。例えば大晦日の五木ひろしさんが歌ってくれた「夜明けのブルース」。松山市の二番町が舞台になりましたけれども、皆さん笑顔になりましたでしょう。松山が舞台になった歌を歌ってくださった、松山はそれで元気になったわけですね。また松山が舞台になってできた歌は「この街で」っていう曲がありますけれども、あれも愛唱歌として大分広がっています。私就任させていただいてからJR松山駅の列車の到着メロディ、そして伊予鉄の松山市駅の列車の出発メロディとして採用されています。いろいろこの歌を使ったまちづくりやってみて、松山市の歌がごみ収集車の曲として流れるようになりました。これ実は、昔はごみ収集車の歌は赤とんぼの歌が使われていたんですけども、朝の収集なのになぜか「夕焼け小焼けの赤とんぼ」が流れてるんですね。これなぜかという、昔はごみをかごのようなもので出して、「収集が終わりましたよ、かご下げてください」という「一日が終わりましたよ」という意味合いで赤とんぼの曲が流れていたんだそうです。ごみ収集車ってメーカーが少ないですから、あるメーカーが赤とんぼの曲カセットテープ入れてたらそれが全国に広まっちゃったというわけで、あんまり赤とんぼの曲に意味がなかったんですね。ごみ収集車に自分のところならではの曲を使っている市が全国の中でいくつかありまして「これやってみよう」ということで松山市の歌を今オルゴールの形で流させていただいてますけれども、松山市の歌は実は松山市が90周年のときにつくった歌です、34年前につくった歌ですけども全然歌われてなかった。もったいなかった、「明るい日ざしのそそぐ町〜」、ごみの収集朝ですけどもちょうどぴったりですね、歌詞見てください。今からの時代に大事なことがすごく歌われているんですよ。知ってほしいっていうことで

ごみ収集車の曲に採用させていただきました。実はあの曲をつくったのは芥川也寸志さんといひまして、芥川龍之介さんの三男です。小鳥の歌とか赤穂浪士のテーマとか八墓村のテーマとか八甲田山のテーマとかつくられた方なんですけど意外と知られていなかったのて採用していただきました。今歌のまちづくり結構していますので、これからもまた進めていきたいと。あと、皆さん2月の中旬から、松山のキャッチフレーズを決めましてロゴマークを皆さんに選んでいただくというプロジェクトを始めます。みんなで松山を盛り上げていきましょうや、っていうプロジェクトをやりますので、好きなロゴマークを選んでいただけたらと思います。さまざま都市ブランドっていいですけども、ほかの地域との競争になりますので、都市ブランドますます上げていきますのでよろしくお願ひします。

【男性】 この粟井地区は先ほどからも話題にたびたび出ておりますけれども旧北条市の中でも唯一人口が増え続けている地区です。ほかの地区は人口が減少しております。これは粟井地区は松山市の市街地にもっとも近いということ、本当に豊かな自然に恵まれていること、JRの駅が2つもあるという交通の便等々がありまして本当にこの粟井地区住みよいところだと思います。この恵まれた住環境の特性を踏まえて、この粟井地区を松山市のベットタウンとして生かしていくことが松山市の発展ひいては粟井地区の活性化につながるんじゃないかと考えております。そこで現在市街化調整区域とか農業振興地域とかで規制されていて家が建てられないところがずっとありますのでそういうところをなくして、粟井地区はどこでも家が建てられるという住宅特区のようなものにしていただくことはできないでしょうか。少なくともバイパスから西側の地区はそういう市街化調整区域とか農業振興地域とか外していただいて、もっともっと家がどんどん建ってこの地区が活性化する一番もとになるんじゃないかと思ひますので、この点ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

【都市政策課長】 松山市では今適正な土地利用を行なうために市街化区域また市街化調整区域という形で区分しております。今言われましたように市街化区域はやはり市街化を計画的に整備促進する区域、また調整区域におきましては開発とか建築行為を抑制する区域になってます。それでベットタウン構想、市街化区域を広げてほしいということなんですけど、松山市現在約7千ヘクタールくらい市街化区域がございます。その中で約1割弱550ヘクタールくらいまだ農地が残

っております。その市街化区域内の農地をまずは活用しなければならないということで、市街化の線引きを196の新しい道まで広げるのが非常に難しいというのが現状です。また市街化区域編入するための条件とかいろいろございます。それは土地区画整理事業をするとかいろんな条件はございますが、今回の粟井地区の線引きの変更は非常に困難であると考えております。

【市長】 私のほうから松山のまちづくりについて説明をさせていただきます。よく少子高齢化と申します。少子でいいますと子どもの数が少ない、誰しも税金を払うのが好きだっていう人はいないと思います。子どもが少ないとつまり成長して働いて税金を払ってくれる方が少なくなるんだということを意味します。行政からすると税金いただかないとまちづくりはできないです。少子ですから子どもの数は減っていく。片や高齢化ということは運動能力も落ちていく、視力も落ちていくということで免許の返上もこれからは考えないといけない。そういう中で車がないと生活できないところだと困るんですね。でもおかげさまで松山は公共交通機関が残ってます、路面電車があります、郊外電車もあります、JRもあります。これすごく大きかったことなんです。そして松山は平坦部が多いですね。そして都市の真ん中にお城山を中心として県庁も市役所も近い、まちの真ん中にあります。大学もある、病院もある、銀行もある。都市の機能が中心部にまとまっているコンパクトシティという非常に将来のことを考えると、さっき言いましたように高度経済成長の時代やったら幅広い道路をどんどん郊外に延ばしていく。下水道をどんどん郊外に延ばしていくということができたんですけども、今からは人口が減っていく社会になります。それを考えると都市の経営コストとか環境への配慮のことも考えると、中心部に集めていくような流れになると思います。そう聞くと、粟井に住んだらいかんということじゃなくて、お団子と串の考え方というのがあるんですけども、串は公共交通機関、郊外電車とかJRだと思ってください。松山の中心部は大きいお団子、路面電車ですね。このあたりに人が住んでいく、商いをするところもこの辺に集約されていく。そして各地各地には駅がありますね。駅の周りに土地を開発されて、こういう形で小さなお団子が各地各地にできている。粟井駅の周りに家が増えている。柳原のほうにも増えていくとか北条駅のほうにも増えていく、こういうお団子と串の考え方が松山のまちづくりができるので、自然に粟井駅の周辺にもこれから人が集まっていくのかな、

公共交通を中心としたまちづくりが、環境への配慮も、また都市の経営コストから考えても一番松山にふさしい、こういうまちづくりになるんじゃないかと考えています。

【男性】 粟井地区自主防災連合会として粟井の安心安全を守ろうということでみんなと協力してやっています。災害が予想されるときに迅速確実な連絡がないといけない。避難情報連絡システムも考えていただきたいと思います。南海トラフ大地震の津波や集中豪雨が起こりますと逃げるが勝ちだと東日本大震災の教訓です。このような情報は今は防災無線で放送されると聞いてます。しかし防災無線で全戸への確実な避難情報はまずだめだと、特に逃げないかんときは大雨が降っている。そういうことで粟井地区は鳥生災害対策指導官のもとに地区別のハザードマップをつくり防災マップをつくってますが、粟井の山間部は土砂災害に対して一時避難する場所がありません。それでいち早く粟井小学校に逃げるしかないかなということで全戸への情報伝達をどのように進めていかれるのでしょうか。他都市では個別の緊急告知放送システムというのが確立されるところは全国で17地区くらいあります。松山についてはそういうお考えがありませんでしょうか。これを1点ひとつお願いします。

【消防局企画官】 言われましたとおり、松山市では平成23年から25年にかけてデジタル防災行政無線を整備しております。その中で北条地区につきましては80基の整備を予定しております、粟井地区が17基整備の予定ですが会長さんのご尽力によりまして1基増設をさせていただきます。これは大西谷に防災行政無線を1基増設いたしまして18基といたします。それと牛谷の災害時大雨時に孤立地区になるところですが、ここには戸別受信機といたしまして、携帯用の屋内にいても受信できる装置をここの2世帯に1基ずつ配備するようしております。防災行政無線もデジタル化になりますと音達距離が広がりますので今よりは聞こえやすくなると。これ原則で整備を進めておりますが、なお大雨で聞き取りにくかったとか、聞こえなかったというときは、このデジタル行政無線の放送を自主防災組織の会長さん宅の携帯電話から暗証番号を打つと再度放送ができるシステムにもしております。また今回整備に伴いまして、わからなかったらテレホンサービスですね対策本部にかければ今の放送が何であったかということがわかるようにもなっておりますので、さまざまな方法を取って皆様方全戸とい

いますか多くの方に情報を提供できる形をとらせていただいております。また放送電波FM放送もあらゆる放送媒体を調査いたしまして、何が適当で何が松山市で有効に活用できるかというところも今あわせて調査の段階ではありますが、検討させていただいておりますのでそういう形で今進めさせていただいております。

【市長】 私のほうから皆さんに知っていただきたいのは、今はもうデジタル、新しいものに切り替えをしています。4月ごろまでには整備終了するということですので新しくなると思ってください。FM放送はコミュニティFMがあると話が早いんですけども、松山はコミュニティFMっていうのは今はありませんので、ちょっとまた別の形で検討してるところです。よろしくお願いします。

【男性】 ではもう1つ、自主防災連合会の活動体制を強化せんといかんのじゃないかと思えます。松山市は全地区に自主防災会を発足させたと、それから防災士数は全国一ということで自慢できるんですが、本当に各地区がそういう体制が全国一かいうと私は疑問だと。数はそろえた、形はできたけども実際に活動してる、要するに全員が活動するいうかそういう対応にはなっていないということで、行政としては各地区に自主防災だということで任せているのではないかと思えます。我々のところも実際やっとなんですが、他地区の連合会長の話も聞いとるんですけれども温度差が大きいのが現状です。住民の安心安全というのを自主防災会に任せるのであれば、行政当局の積極的な管理支援が必要、ほっといたらいけないと、ボランティアということですねというふうに感じてます。今モデル事業として最大30万円の助成金、しかし地元負担金が3分の1必要だということで我々のところも来年度は対応しようとしてますが、地元負担金なしでの制度にしてほしいと思っておりますがいかがでしょうかということと、自主防災会の中心的な役割を担う人たちに消防団に準ずるような教育と処遇を考慮してもらえませんかということと、それから栗井地区に安岡避難地があります。しかし災害時の避難場所としては十分ではない。今年度松山市の防災モデル事業として活用して我々も防災設備を充実させたいと考えてますが、市当局としてもそういう点の充実を進めていただくようお願いしたいということでございます。

【市長】 私のほうから。自主防災組織というもの、私は自主っていうのが大事だと思いますので、この方法をとらせていただいております。皆さん東日本大震災の映像を思い浮かべていただいたら、あれだけの幅広い広大なところが被害を

受けた。現実問題、市民の皆さんの安全を守る消防職員がいますけども消防職員が全部ケアできるかといったらそれはとても無理です。今消防職員がいる、消防団がいる。消防団は特別公務員ですからお給料払ってという形になります。そして定員もあります。そして防災士、先ほど言われましたけど防災士っていうのは日ごろは啓発活動をする。いざというときには避難誘導をするっていう大事な方。この方は松山市は以前から大事だということに気づいておりましたので税金で育成をしてまいりました。今1,550名、日本の自治体の中では一番多い数字です。二番が大分市、三番が名古屋市です。名古屋は225万のまちです。それに52万の松山が勝ってるというのはどれだけ防災士が多いかっていうのがわかります。何が言いたいかというと、やはり公の人間で全部カバーすることはできないので自主防災組織をつくっていただいて、公の手が来ない段階でも自主的に動いてくださることが大事だと考えて自主防災組織を広げてまいりました。ですのでやはり自主ができることが大事だと思っていますので、以前からもこの形をとらせていただいております。もちろん、もう自主防災組織さん勝手にやっってくださいというのではなくて、それは我々行政としてしっかりと連携ができないといけませんので、足りないところがあったらどうぞ言っていただいたら連携しながら育成をする、いろんなところで地区で温度差もあるのも聞いてますのでしっかりと育成をしていきたいと思っておりますので、これからもよろしく願いいたします。

【消防局企画官】 補助金につきましては、連合会単位30万円上限で、3分の2の補助という形をとらせていただいております。地元負担金を若干負担していただいて、地元の自主性とか独立性を促進していただきたいという気持ちもありまして、そういう形をとらせていただいております。粟井地区で18の町内会がありまして、23の自主防災組織が結成されておりますので、自主防災組織単位でいろいろ援助していただくような形をとればと思っておりますが、自主防災組織の連合会長さんに対しましてご協力をよろしくお願いいたします。それと消防団に準ずる教育ですが、消防団は消防機関の一部として常備消防と連携して災害活動にあたらなければなりませんし、普段から教育や訓練などをしておりますので、そういった公設の機関とは一緒の教育はできませんが、各消防署、支署に消防職員おりますので、言っていただきましたらいつでも研修等実施いたしま

すので、ご連絡していただければと思います。よろしくお願いします。

【男性】 今の政権政党の公約の中の155番目に「統合医療推進をします」、156番目に「健康都市宣言」という言葉があるんですが御存じでしょうか。統合医療というのは西洋医学一辺倒じゃなくって、有効な医療あらゆるものを取り入れますというんで欧米ではどんどんやっています。日本がちょっと遅れてるんです。健康都市宣言というのは世界的な流れで、国内でも健康都市宣言された市もあります。今日はどういうことかと申しますと、今日もいろんなロードの話とか、公園づくりとかありました。そういうことも予防医学という点では運動する場ができるわけですから医療費の削減にもつながります。それから地域のつながり、粟井は非常に優れているんですけども、そうしたことも病気にならない環境づくりの1つだと思えます。それで私お願いしたいのは、よその地区で健康都市を宣言しているところは、縦割り行政ではなくてそれぞれの課で公園をつくるどころ、あるいは予防医学の宣伝をするところ、いろんな課が統合して、本当にみんなが安心安全で健康でできるような方策を、市全体として横の連携をとって健康都市宣言をしてほしいんです。それがいろんな税金とか医療費削減につながります。日本全体では、毎年医療費が1兆円上がっていると聞いたんですが、松山市も同じように上がっていったらと思うんです。それを縦割り行政でなくて、健康都市宣言をしていくという方向で検討してほしいんです、以上です。

【市長】 はい、わかりました。これ市全体のことに関わりますので私のほうでお話をさせていただきます。思いは同じです。実は厚生労働省のデータがありまして、1日国民一人一人が3千歩歩いていただいたら、国全体で2,700億円の医療費を削減できるというデータがございます。2,700億円の医療費削減できると、ほかに使えるってということがざっくりいえます。今松山市力入れているのは、小学校の先生とか幼稚園の先生とか保育園の先生は御存じですけど、「手洗い・うがい・歯磨き啓発ソング」っていうのを出しまして、これもほんとお金でできるんですね。これは保健所と教育委員会が連携をしまして、それこそ縦割りじゃなくってつくったものです。ある幼稚園、保育園だったかな、今年インフルエンザが、「手洗い・うがい・歯磨きソング」をつくったので、インフルエンザがかなり抑えられてるっていうデータも出ております。また、予防医療に力を入れていきたいと考えておりまして、私就任してから妊婦さ

んの個別検診が受けられるようになった。歯医者なんですけども、妊婦さんつわりもあって、口の中をきれいに保つことが難しいんだそうです。そうすると、お腹の赤ちゃんが早産で産まれてくるリスクが高くなるそうなんです。この虫歯の菌は口移しなんかでするとうつりやすいものだそうで、そういうことで予防医療。早産で産まれてくるリスクも避けられるので、妊婦さんの個別歯科検診制度も設けました。また今度3月議会でも予防医療に力を入れた方策を1つ出しております。このように、思いは同じで予防医療に力を入れていきたい。その1つとして、去年の秋、花園町の社会実験をさせていただきましたけども、これは歩く人、自転車の人に配慮した道路の使い方をしましょうというので、花園町の社会実験をさせていただきましたんですが、もっと歩いていただこう、もっと自転車に乗っていただこう、そういうふうに配慮したまちづくりをしていけば体を動かすことにもつながります。体の不自由な方も歩きやすくなる、お子さんも歩きやすくなるということで、そういう方向性で松山は進めていこうと思いますんで、まさに思いは一緒だと思いますんでこれからも進めてまいります。

【保健福祉政策課長】 私先ほどの地域包括支援センターのご質問につきまして、説明を急ぎましたんではしよったところがございます。市内の40地区に対しまして、10の包括支援センターを設置しております。包括支援センターは出向いて行って相談を受けることを基本姿勢にしておりますので、どんどんご遠慮なくご相談ください。以上でございます。

【市長】 今日皆さん長時間ありがとうございました。様々な課題が寄せられました。冒頭申し上げたとおり聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにはしないというのが松山市版のタウンミーティングなので、必ず1カ月をめぐりに、持ち帰らせていただくことは必ず返事をさせていただきますので、1カ月ほど待っていただいたらと思います。このタウンミーティング39地区目になりますけども、ちょっと市民の皆さんから感じることでありまして、意外と市役所を敷居が高く感じられてるんじゃないかなっていうのを感じております。最初遊歩道の話とかが出まして市民参画まちづくり課のことを紹介しましたがけれども、市役所ってそんなに敷居の高いところじゃないんです。私よく言うのは、市役所は市民の皆さんの役に立つところで市役所じゃなきゃいけないと思ってますので、どうかご相談いただいたら、こういうやり方もありますよとかいうのもお伝えすることがで

きますので、どうぞ遠慮なく市役所に問い合わせさせていただいたらと思います。また道路のことも、私、皆さん御存じのとおり一市民から出てきた人間ですけども、どこが国道でどこが県道でどこが市道かなんてわからないですよ。これは市に言うたらええんかな、これは県に言うたらええんかな、これは国に言うたらええんかな。そういう場合も遠慮なく市に言ってください。それは県だなと思ったら、私たちのほうから直接お伝えすることもできますので、どうぞ遠慮なく市役所に言うていただいたらと思います。1つだけ。やっぱり要望というのは、もし県のことであれば、我々のほうからちゃんとつなぐんですけどもよくあるのが、行政に市民の方が要望持っていくと、すごい大仰なことに受けとってしまって、「いやいやそこまではできないです」とかいうことになっちゃうんですけど、市民の方は案外そこまでは求めてなくて、「ちょっとこうしてくれたらいいんよ」ということを、大仰に受け取ってしまうことがあります。ですので、直接言うていただくと一番伝わりやすいので、縦割りとかいうのでなくて、我々のほうからもつながりますけども、やっぱり要望って言うのは直接言うていただくのが一番伝わりやすいのかなと感じております。これからも、市民の皆さんの役に立つところ、市役所であり続けたいと思いますので、気楽に市役所に声をかけていただいたらと思います。またタウンミーティング、1巡目で終わりではありません。2巡目もやるつもりでおりますので、またこれからも重ねさせていただこうと思います。本日は長時間ありがとうございました。

— 了 —